

# 東北新幹線全線開業後における本県観光の動向について

## 1 目 的

平成22年12月に県民待望の東北新幹線が全線開業した。この開業を契機に観光客を増加させ、観光産業を活性化させるため、官民挙げて取り組んできたものである。

不幸にも翌年3月11日には東日本大震災という未曾有の大災害が発生し、好調に推移していた観光客数が激減したが、夏頃からはほぼ前年並みまで回復した。

福島第一原子力発電所事故の風評被害の影響がいまだ残っているが、開業1周年を経過したことを踏まえ、東北新幹線全線開業後における本県観光の動向について分析した。

## 2 検証方法

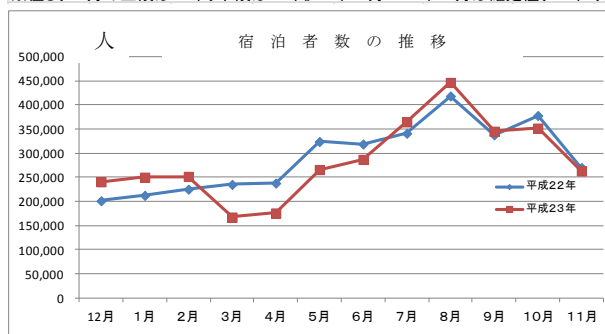
国や県の各種統計調査、(社)青森県観光連盟の調査、さらには関係団体・事業者への聞き取り調査等により、県(観光国際戦略局)がまとめた。

## 3 内 容

### (1) 開業1年間(22年12月～23年11月)の宿泊者数の推移

国の宿泊旅行調査		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
延べ宿泊者数	平成22年	201,350	212,550	225,260	235,200	237,960	324,120	318,910	341,120	418,490	337,920	377,970	270,190	3,501,040
	平成23年	240,740	250,170	251,800	167,550	175,990	266,010	287,070	364,900	446,500	345,410	351,830	263,220	3,411,190
	前年比	119.6	117.7	111.8	71.2	74.0	82.1	90.0	107.0	106.7	102.2	93.1	97.4	97.4

※但し、12月の上段は21年、下段は22年。21年12月～22年12月は確定値、23年1月～11月は暫定値。従業者数10人以上の延べ宿泊者数。



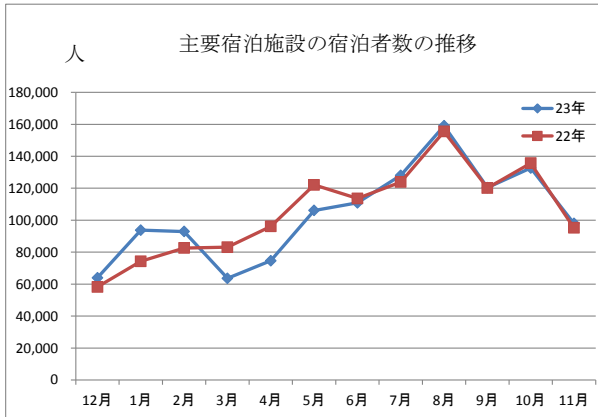
	12月～2月	3月～5月	6月～11月	12月～11月
平成22年	639,160	797,280	2,064,600	3,501,040
平成23年	742,710	609,550	2,058,930	3,411,190
前年比	116.2	76.5	99.7	97.4

- ・ 国の宿泊旅行統計調査によれば、平成22年12月～23年2月の延べ宿泊者数は、前年比111.8%～119.6%と2桁の伸びとなり、22年12月4日の東北新幹線全線開業の効果が現れた。
- ・ しかし、23年3月11日の東日本大震災による新幹線の運休や消費者の旅行自粛、さらには東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害等によって、3月～5月は前年比71.2%～82.1%の大幅減となった。
- ・ その後は、青森デスティネーションキャンペーン(23年4月23日～7月22日)やJR東日本の割引切符販売、大型コンベンション開催など懸命な努力の結果、6月に前

年比 90.0%まで回復し、7月からは前年を上回る程度にまで回復したが、10月以降は93.1%~97.4%で推移し、22年12月から23年11月までの1年間では97.4%となった。

県のサンプル調査(主要宿泊施設)													
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
22年	58,205	74,285	82,556	83,110	96,096	122,091	113,623	123,857	155,531	120,163	135,691	95,223	1,260,431
23年	63,971	93,782	92,880	63,620	74,608	106,105	110,845	128,032	159,039	120,365	132,624	97,966	1,243,837
前年比	109.9	126.2	112.5	76.5	77.6	86.9	97.6	103.4	102.3	100.2	97.7	102.9	98.7

※但し、対象は県内の56の主要宿泊施設(22年12月は43施設)。



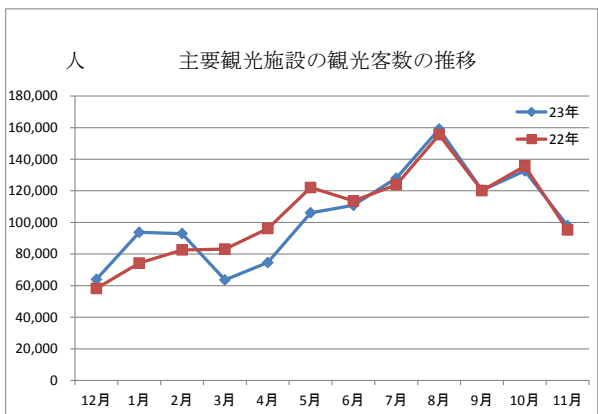
	12月~2月	3月~5月	6月~11月	12月~11月
平成22年	215,046	301,297	744,088	1,260,431
平成23年	250,633	244,333	748,871	1,243,837
前年比	116.5	81.1	100.6	98.7

- 県が毎月実施している県内56の主要宿泊施設を対象にしたサンプル調査でも、国の宿泊旅行統計調査とほぼ同様の傾向となり、平成22年12月~23年2月の延べ宿泊者数は平均116.5%、3月~5月は81.1%、6~11月は100.6%となり、22年12月から23年11月までの1年間では98.7%となった。

## (2) 開業1年間(22年12月~23年11月)の観光客数の推移

県のサンプル調査(主要観光施設)													
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
22年	556,920	470,491	520,992	590,672	804,366	1,333,305	755,061	979,927	1,633,596	857,455	1,058,520	772,256	10,333,561
23年	718,419	612,595	580,646	348,783	512,720	1,013,449	770,572	1,044,646	1,549,434	984,082	1,053,162	688,337	9,876,845
前年比	129.0	130.2	111.5	59.0	63.7	76.0	102.1	106.6	94.8	114.8	99.5	89.1	95.6

※但し、対象は県内の34の主要観光施設。

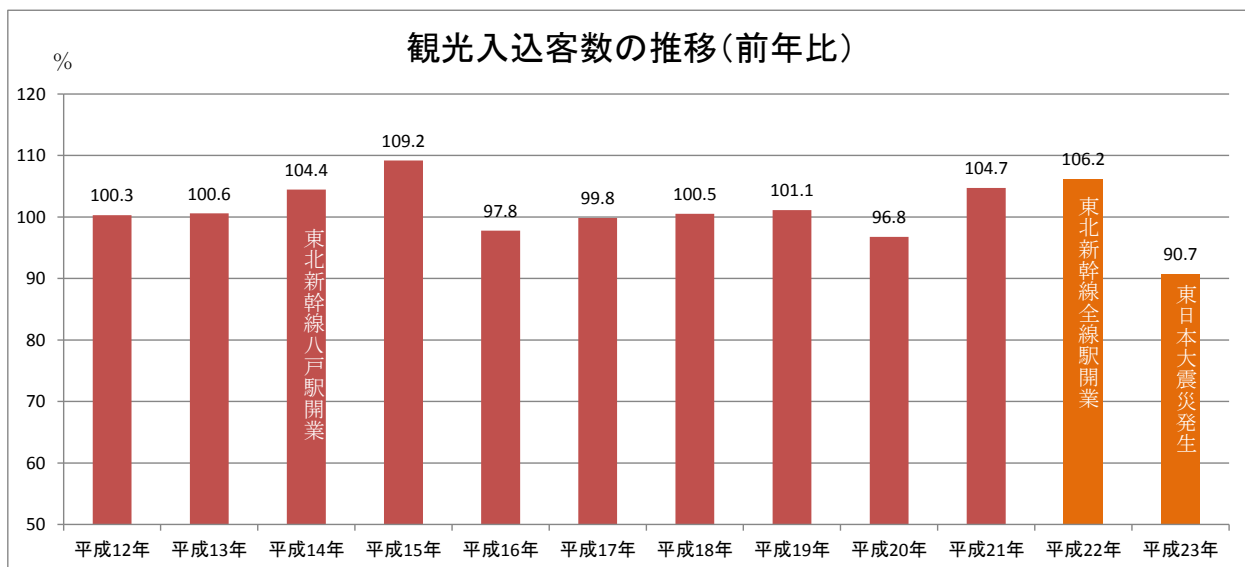
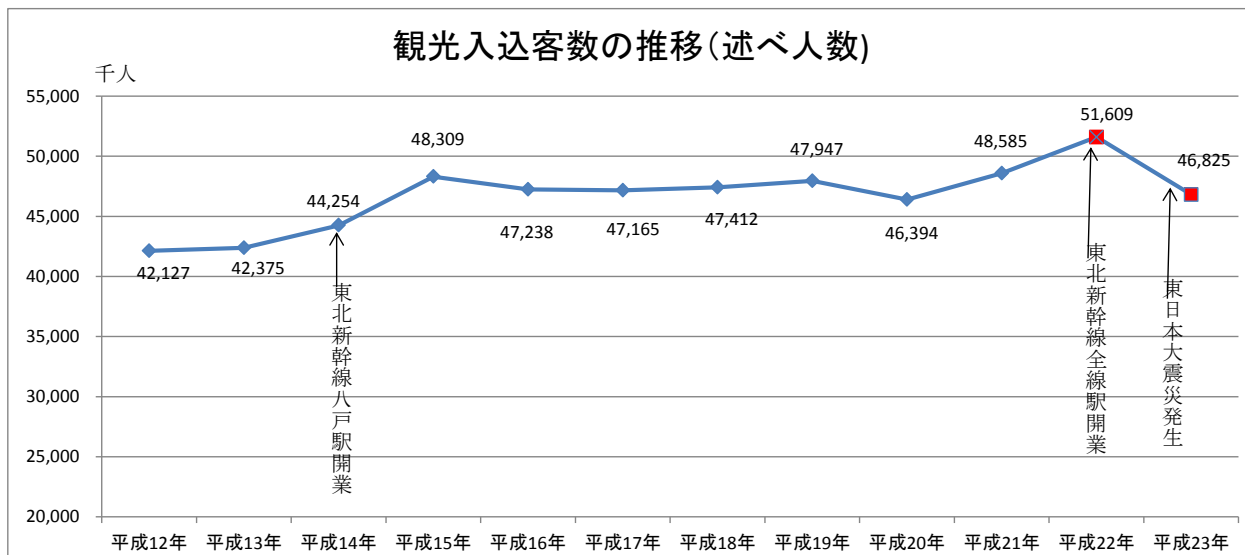


主要観光施設			
	12月~2月	3月~5月	6月~11月
平成22年	1,548,403	2,728,343	6,056,815
平成23年	1,911,660	1,874,952	6,090,233
前年比	123.5	68.7	100.6

- 県が毎月実施している県内34の主要観光施設を対象にしたサンプル調査によれば、開業直後の平成22年12月~23年2月入込数は、平均123.5%の2桁の伸び、震災直後の3月~5月は68.7%の大幅減、6月以降は100.6%と前年並みまで回復したが、22年12月から23年11月までの1年間では95.6%となった。

### (3) 八戸開業時との比較

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
入込数(千人)	42,127	42,375	44,254	48,309	47,238	47,165	47,412	47,947	46,394	48,585	51,609	46,825
前年比(%)	100.3	100.6	104.4	109.2	97.8	99.8	100.5	101.1	96.8	104.7	106.2	90.7



出展：平成12年～21年：青森県観光統計概要、平成22年：青森県観光入込客統計、平成23年：県のとりまとめ(暫定値)。但し、平成22年から統計手法が変わり、国の共通基準を導入したことから、それ以前と単純な比較はできない。

東北新幹線は平成14年12月に八戸駅開業しており、その時の観光入込客数(延べ人数)をみると、開業直後の平成15年は前年比109.2%と大きく増加した。

一方、平成22年12月4日に全線開業した直後の平成23年は、東日本大震災により、4月～6月期が大きく落ち込んだ影響から前年比90.7%にとどまった。

#### (4) 東北他県との比較

青森県		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
実宿泊者数	平成22年	177,900	185,690	196,670	200,520	276,020	270,680	287,030	350,600	284,870	312,090	221,320	197,670	2,961,060
(従業者10人以上)	平成23年	197,140	194,410	116,270	128,400	207,220	228,300	287,570	349,550	285,850	291,400	211,540	185,520	2,683,170
前年比		110.8	104.7	59.1	64.0	75.1	84.3	100.2	99.7	100.3	93.4	95.6	93.9	90.6

秋田県		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
実宿泊者数	平成22年	172,250	170,240	191,010	163,130	215,070	211,770	232,330	287,290	213,040	252,660	173,720	140,390	2,422,900
(従業者10人以上)	平成23年	134,470	137,250	93,050	105,120	162,990	172,100	195,790	254,140	184,610	249,110	170,400	147,500	2,006,530
前年比		78.1	80.6	48.7	64.4	75.8	81.3	84.3	88.5	86.7	98.6	98.1	105.1	82.8

山形県		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
実宿泊者数	平成22年	251,160	265,740	280,210	235,040	282,660	309,270	307,310	366,490	281,760	349,900	285,510	265,450	3,480,500
(従業者10人以上)	平成23年	231,390	263,350	185,420	175,120	236,150	260,600	302,290	363,240	276,590	334,780	286,230	274,240	3,189,400
前年比		92.1	99.1	66.2	74.5	83.5	84.3	98.4	99.1	98.2	95.7	100.3	103.3	91.6

岩手県		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
実宿泊者数	平成22年	270,590	271,180	285,500	265,190	315,030	281,120	306,700	419,110	303,030	363,370	286,020	255,470	3,622,310
(従業者10人以上)	平成23年	271,120	271,200	148,250	195,450	255,760	268,040	334,310	438,970	328,720	361,010	323,810	296,460	3,493,100
前年比		100.2	100.0	51.9	73.7	81.2	95.3	109.0	104.7	108.5	99.4	113.2	116.0	96.4

宮城県		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
実宿泊者数	平成22年	399,040	411,360	480,740	422,210	491,470	478,410	519,970	651,640	513,270	566,850	535,670	503,060	5,973,690
(従業者10人以上)	平成23年	393,450	412,220	268,720	397,160	527,150	490,510	517,030	568,270	516,530	536,190	507,990	519,620	5,654,840
前年比		98.6	100.2	55.9	94.1	107.3	102.5	99.4	87.2	100.6	94.6	94.8	103.3	94.7

福島県		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
実宿泊者数	平成22年	513,060	511,740	563,260	454,710	500,480	490,280	519,900	689,980	483,520	602,840	551,760	473,120	6,354,650
(従業者10人以上)	平成23年	444,640	446,510	252,160	287,840	378,970	377,220	419,540	477,660	409,940	416,550	422,600	441,830	4,775,460
前年比		86.7	87.3	44.8	63.3	75.7	76.9	80.7	69.2	84.8	69.1	76.6	93.4	75.1

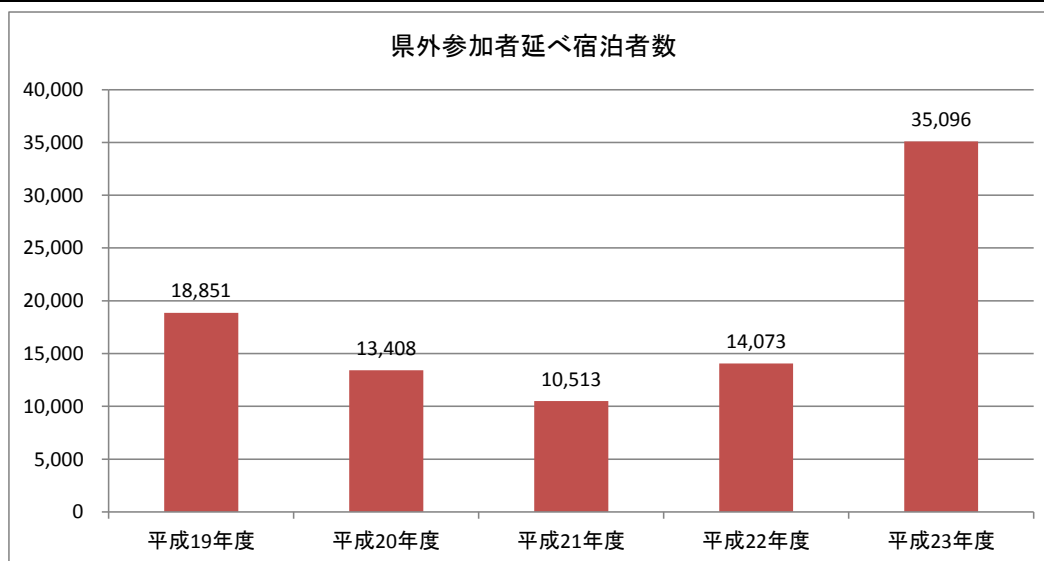
※出展：国の宿泊旅行統計調査（但し、従業者数10人以上の宿泊施設。平成22年は確定値、平成23年は暫定値）

- ・ 国の宿泊旅行統計調査の従業者10人以上の宿泊施設における実宿泊者数でみると、平成23年1～2月は、秋田、山形、福島がいずれも前年を下回っているのに対し、青森、岩手、宮城は前年を上回っており（但し宮城の1月の実宿泊者数は1.4%減）、東北新幹線全線開業の効果が宮城以北に現れていることが認められる。
- ・ 震災の被害が大きかった岩手、宮城、福島の3県でみると、岩手は7月以降前年を上回っており、復興需要のほか、平泉の世界遺産登録決定の影響と思われる。宮城は、4月以降前年比9割から前年を上回る数字で推移しており、復興需要が大きいことが認められる。一方、福島は、前年を下回ったままである。
- ・ 青森、秋田、山形の3県で比較すると、震災以降、実宿泊者数は秋田、山形とも前年を下回ったままであるのに対し、青森は7月に100.2%と前年を上回り、以降8月99.7%、9月100.3%となっており、青森は開業効果やDCにより回復が早かったものと考えられる。

(5) コンベンションの開催状況について

県が開催費助成したコンベンション

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
件数	30件	28件	25件	33件	46件
県外参加者延べ宿泊者数	18,851人	13,408人	10,513人	12,944人	35,096人
県助成額	26,200千円	19,800千円	16,800千円	17,920千円	44,730千円
県予算額	28,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	48,000千円



平成23年度に県が開催費の一部を助成したコンベンションは、46団体で県外参加者延べ宿泊者数は約35,000人となり、前年度に比べ、13団体、約22,000人の増加となった。東日本大震災の影響で一部中止になったものの、新幹線全線開業により、コンベンションの開催が促進されたことが伺われる。

平成23年度に県が開催費助成したコンベンションの四半期別件数・県外参加者延べ人数

	4～6月	7～9月	10～12月	24年1～3月	合計
22年度	7件	11件	13件	3件	34件
	2,957人	3,850人	3,060人	3,077人	12,944人
23年度	9件	21件	15件	1件	45件
	6,352人	15,873人	12,539人	332人	35,096人

月別で見ると、特に7～9月が件数ならびに県外参加者延べ人数が大きく伸びており、県全体の観光入込客の回復、観光消費額の増加に貢献したものと考えられる。

## (6) 観光消費額

国の共通基準に基づき推計した平成23年の観光消費額は139,512百万円(暫定値)となり、東日本大震災の影響で観光入込客数が減少したことから、対前年比では82.1%(暫定値)となった。

## (7) 東北新幹線の利用状況について

区分	1日あたり利用者数	前年実績	前年比
東北新幹線 八戸～新青森間	約9,500人	約7,700人 (東北本線 八戸～青森間の 特急列車)	124%

※平成22年12月～23年2月及び7月～10月までの平均。上下計。

※資料:JR東日本

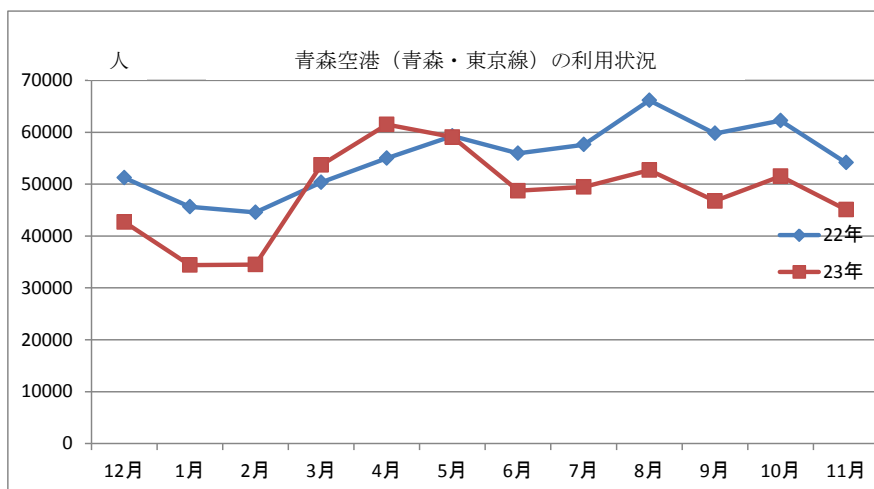
- ・ JR東日本によれば、22年12月～23年10月までの東北新幹線全線開業後の八戸～新青森間の利用者は、東日本大震災の影響が大きかった3月～6月を除き、1日平均約9,500人で、前年比124%だった。
- ・ 震災の影響はあったものの、東北新幹線全線開業により、新幹線で本県を訪れる旅行者が確実に増加していることが伺われる。

## (8) 航空機利用者の推移について

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	(単位:人、%)
22年	51230	45631	44535	50331	54979	59282	55934	57600	66146	59774	62245	54127	661814	
23年	42703	34418	34498	53701	61517	59091	48744	49455	52701	46758	51521	45080	580187	
前年比	83.4	75.4	77.5	106.7	111.9	99.7	87.1	85.9	79.7	78.2	82.8	83.3	87.7	

※但し、12月の上段は21年、下段は22年。東京線は23年6月から機材が小型化されている。

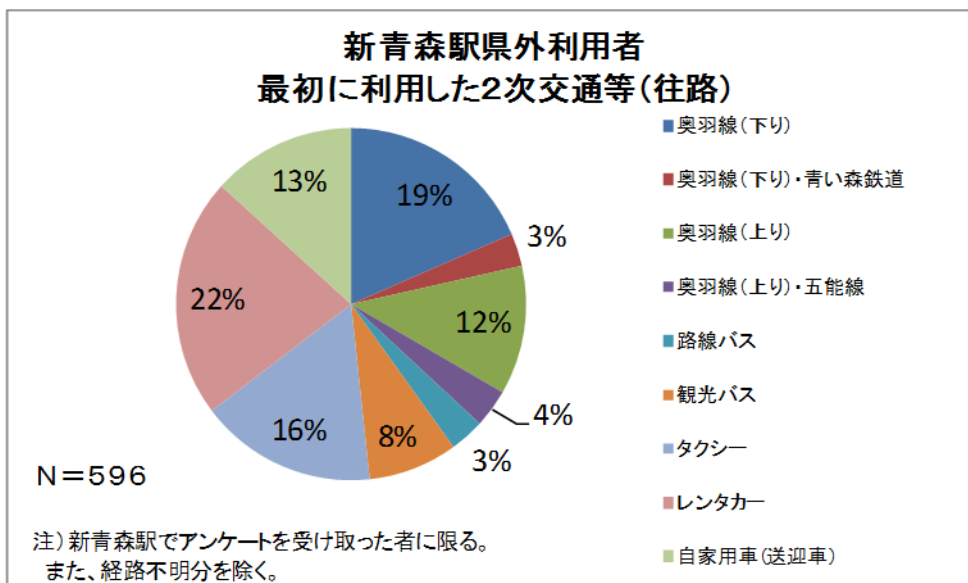
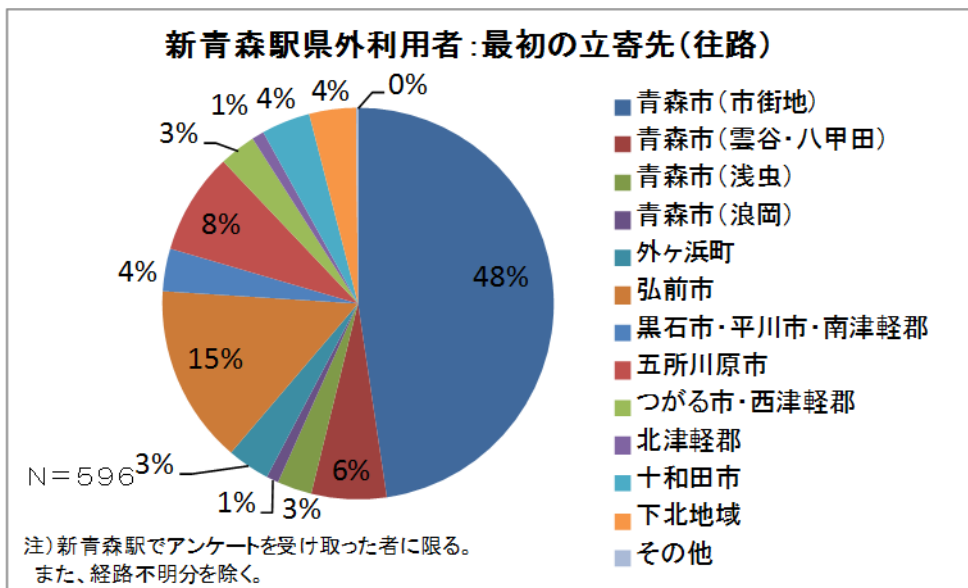
資料：県港湾空港課調べ



- ・ 東北新幹線が全線開業した平成22年12月以降の青森空港(青森～東京線)の利用状況は、東日本大震災後、新幹線の運行が休止した3月～4月は前年比106.7～111.9%

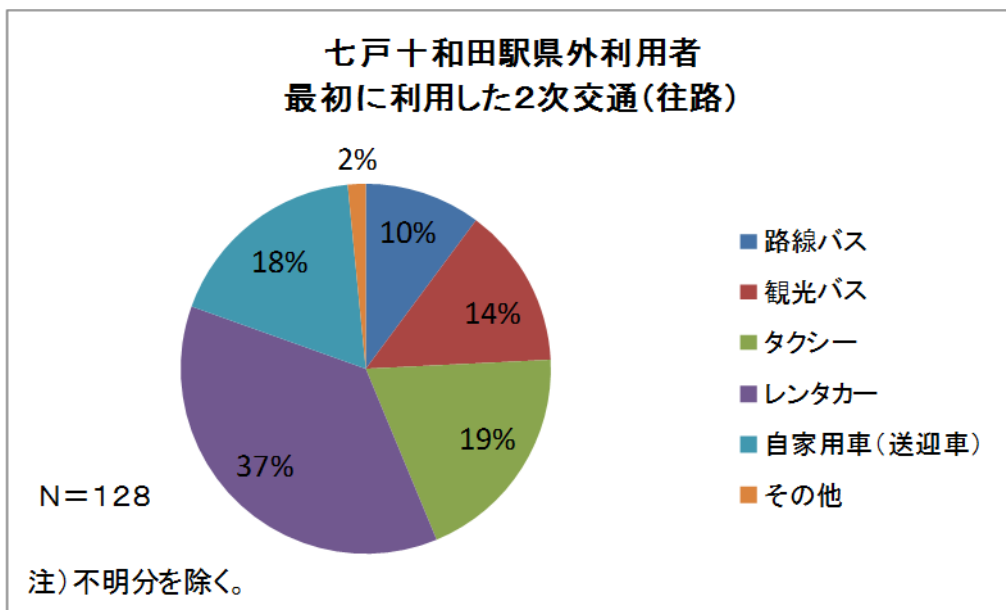
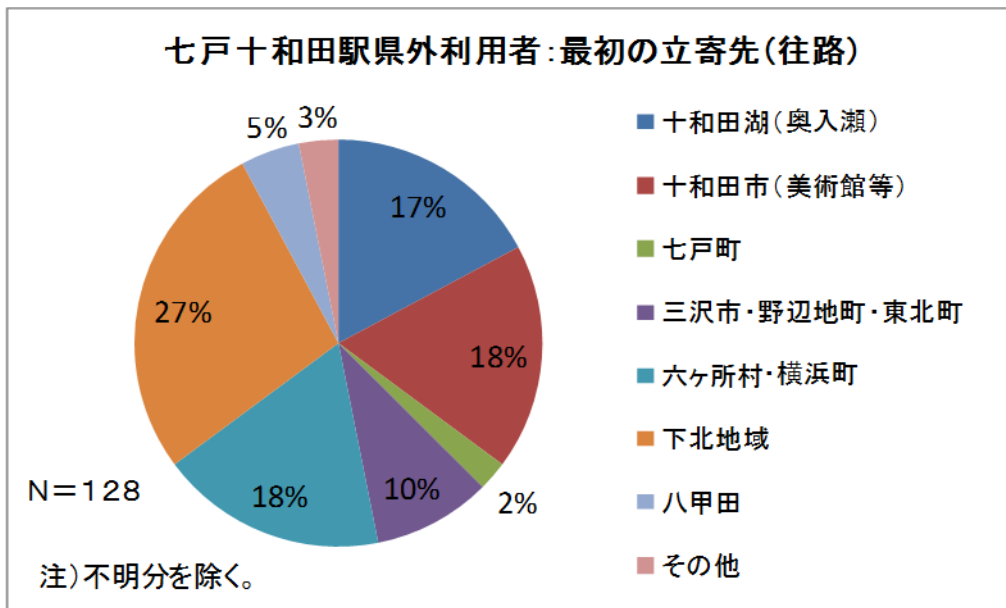
と前年を上回ったが、機材小型化の影響もあり、それ以外の月は前年を下回り、22年12月から23年11月の1年間では、前年比87.7%となった。首都圏からの移動手段が、東北新幹線全線開業により航空機から新幹線へ一部シフトしたことが伺われる。

(9) 東北新幹線全線開業後の新幹線駅からの利用者の動態について



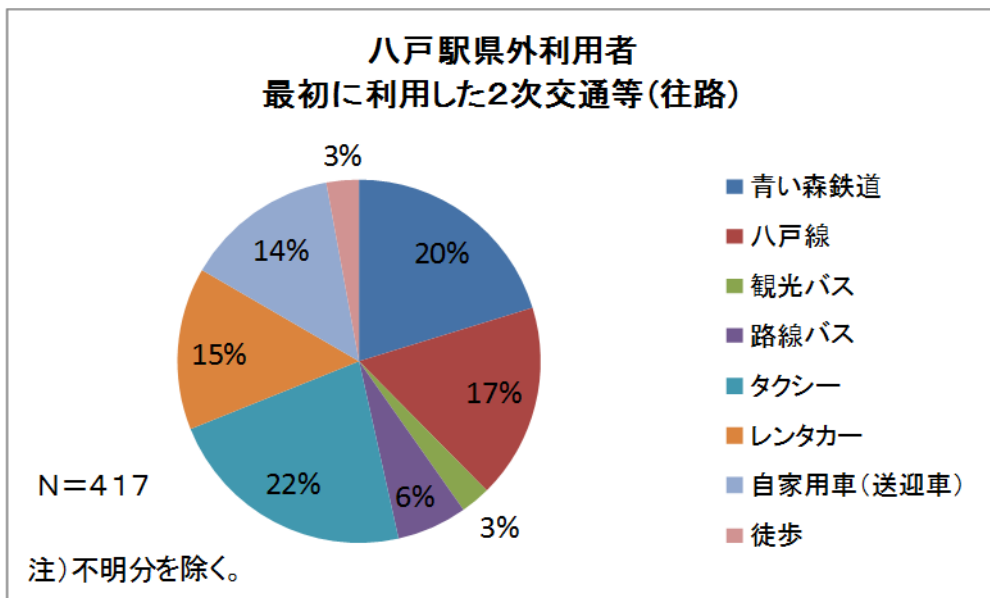
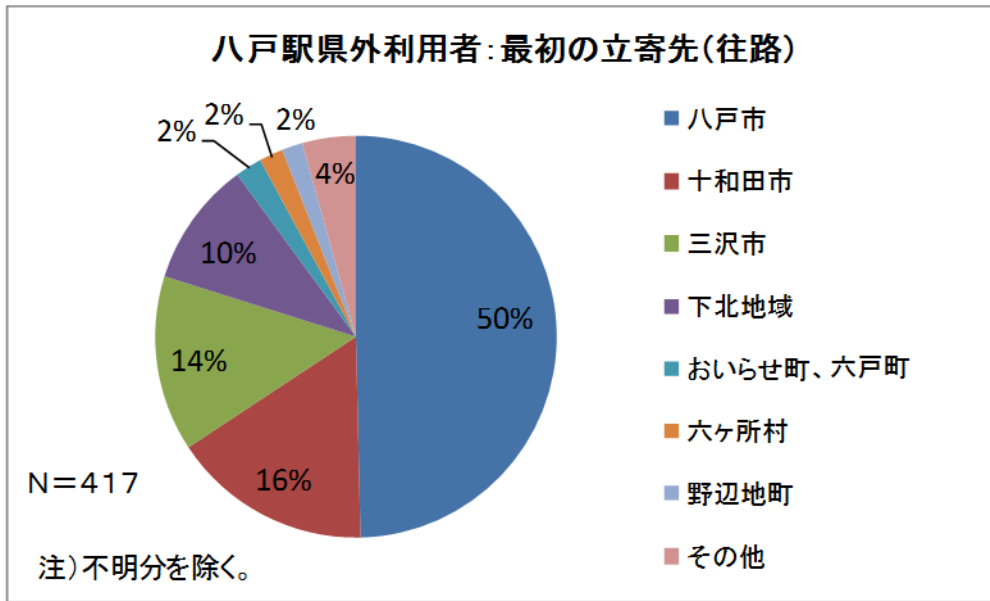
出展：東北新幹線全線開業後の利用交通手段実態アンケート調査（県企画政策部）

- ・ 県（企画政策部）が平成23年9月～10月に実施した「東北新幹線全線開業後の利用交通手段実態アンケート調査」によると、新青森駅に降り立った県外利用者の最初の立ち寄り先は、青森市（市街地）が48%で最も多く、次いで弘前市（15%）、五所川原市（8%）などとなっている。
- ・ また、新青森駅から最初に利用した2次交通は、JR奥羽線が38%で最も多く、次いでレンタカー22%、タクシー16%、自家用車13%などとなっている。



- 七戸十和田駅の県外利用者の最初の立ち寄り先は、十和田市が市内（美術館等）18%、十和田湖（奥入瀬）17%で全体の35%を占め最も多く、次いで下北地域が27%、六ヶ所村・横浜町18%などとなっている。
- 次に、七戸十和田駅から最初に利用した2次交通は、レンタカーが37%で最も多く、次いでタクシー19%、自家用車18%、観光バス14%などとなっている。

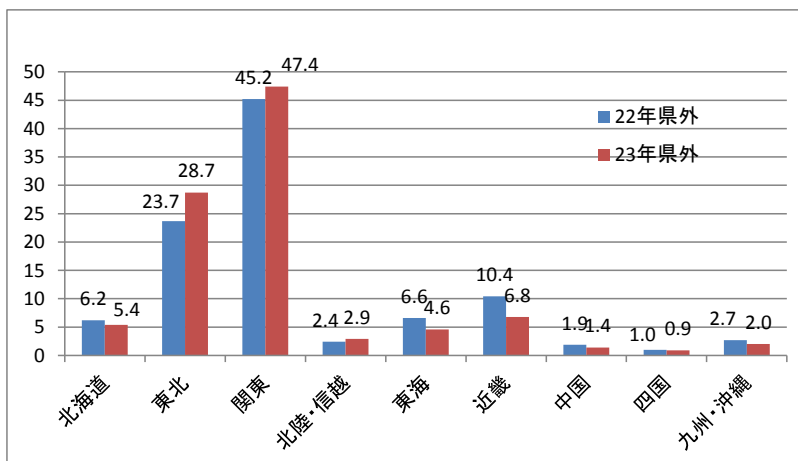




- 八戸駅の県外利用者の最初の立ち寄り先は、八戸市が50%で最も多く、次いで十和田市16%、三沢市14%、下北地域10%などとなっている。
- 次に、八戸駅から最初に利用した2次交通は、タクシーが22%と最も多く、次いで青い森鉄道20%、JR八戸線17%、レンタカー15%、自家用車14%などとなっている。
- 新青森駅からは、青森市内のほか、弘前市や五所川原市などの津軽方面へ旅行者が多く移動していることがわかる。
- また、七戸十和田駅は、十和田湖を含む十和田市方面への玄関口になっているほか、六ヶ所村・横浜町を含む下北方面の玄関口になっていることがわかる。
- 八戸駅は、八戸市のほか、十和田市、三沢市など上十三地域の玄関口になっているのがわかる。

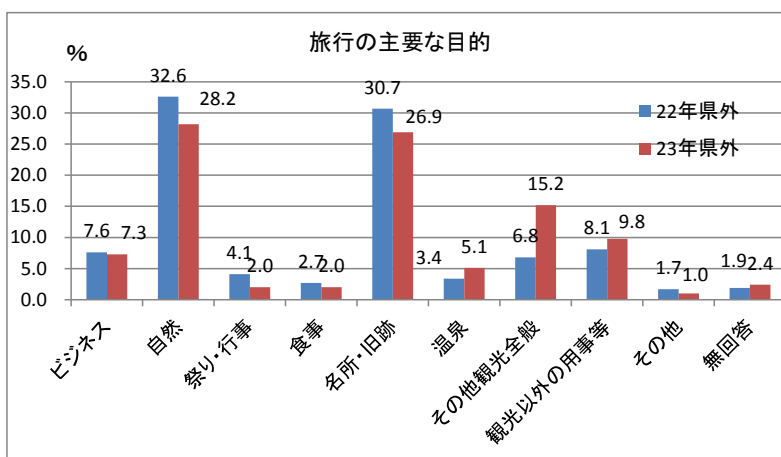
## (10) 東北新幹線開業前後の県外観光客の動態について

### ① 観光客の居住地



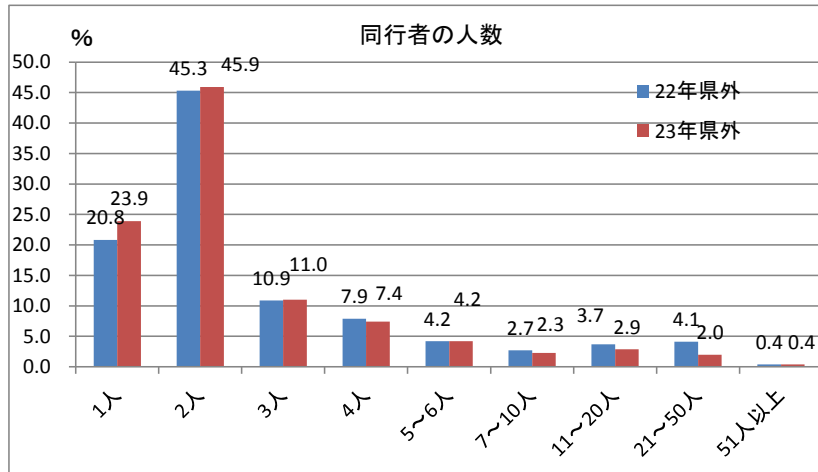
- ・ 県（観光国際戦略局）が実施した東北新幹線全線開業前後における観光客実態調査によれば、開業後の23年は東北と関東、北陸・信越の割合が増加し、北海道、東海、近畿等の割合が減少した。
- ・ 開業効果により、新幹線沿線の関東から東北が増加した一方、その他の地域では震災の影響もあり、減少したものと思われる。

### ② 旅行の主な目的

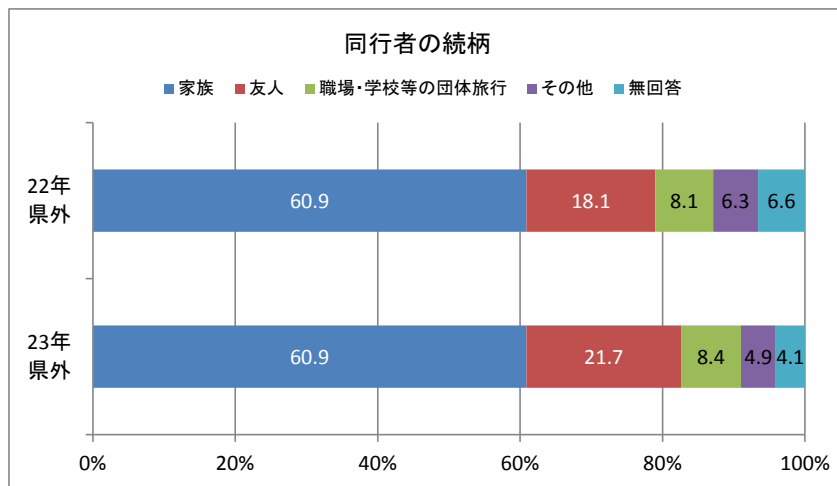


- ・ 旅行の目的では、23年は「自然」が28.2%、次いで「名所・旧跡」が26.9%と多いが、22年との比較では、「自然」「祭り・行事」「食事」「名所・旧跡」といった明確な目的を持った旅行が減少した一方、「その他の観光全般」「観光以外の用事等」が大きく増加した。
- ・ 23年にはコンベンションの参加者が多かったことや、街歩き等目的の複数化などが要因ではないか。

### ③旅行人数と同行者

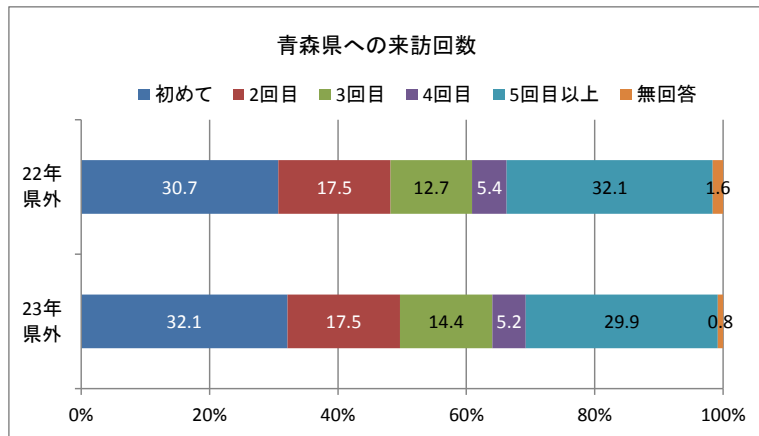


- 同行者の人数では、23年は「2人」が45.9%、次いで「1人」が23.9%と多いが、22年との比較でも「1人～3人」の少人数が増加し、「4人以上」が減少した。



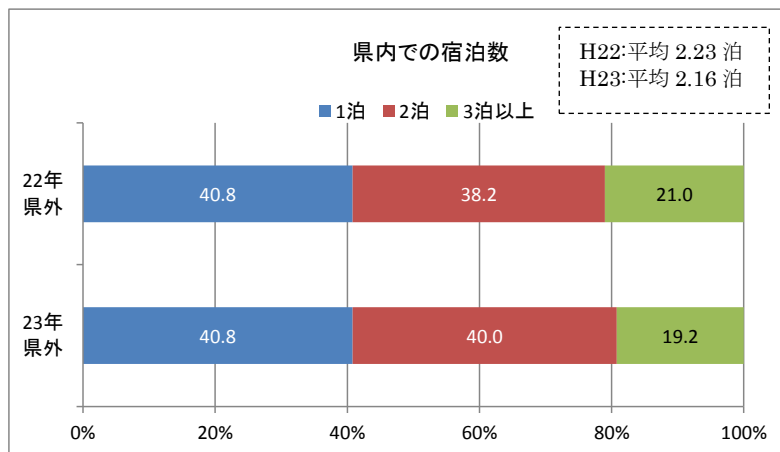
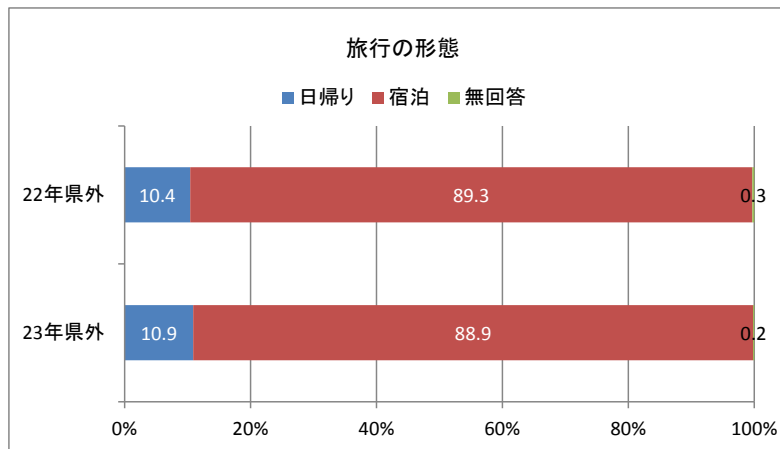
- 続柄では「家族」が60.9%、次いで「友人」が21.7%と多く、22年との比較では「家族」の割合は横ばいだったが、「友人」は3.6ポイント増加したほか、「職場・学校等の団体旅行」も0.3ポイントの微増となった。
- 家族や友人による少人数の個人旅行が増える傾向がさらに進んでいると推測される。

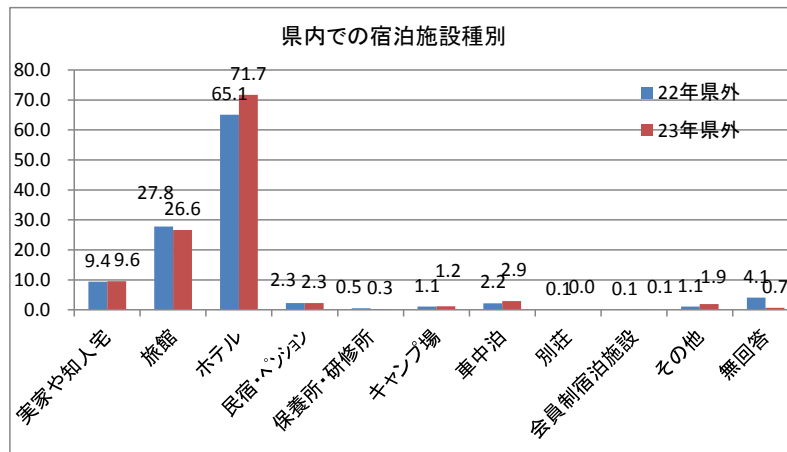
#### ④本県への来訪回数



- ・ 23年は、「初めて」が32.1%、次いで「5回目以上」が29.9%と多かったが、22年との比較では、「初めて」と「3回目」が増加し、「4回目」「5回目以上」のリピーターが減少した。
- ・ 新幹線開業により新たな顧客の開拓や、コンベンション効果の影響によるものではないか。

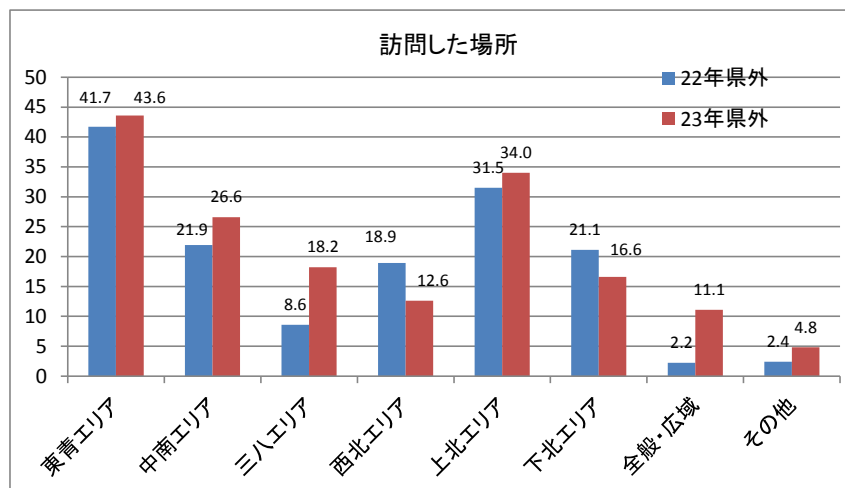
#### ⑤旅行の形態





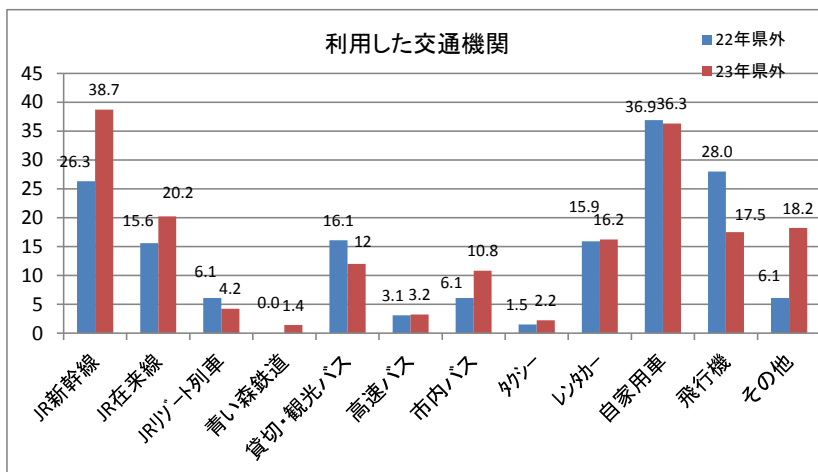
- ・ 「日帰り」が0.5ポイント増加した一方、「宿泊」が0.4ポイント減少した。
- ・ 県内宿泊数は、「1泊」は横ばいだったが、「2泊」が1.8ポイント増加、「3泊以上」が1.8ポイント減少し、平成23年の平均宿泊数は2.16泊で前年と比べ0.07泊減少した。
- ・ 宿泊施設種別では、「実家や知人宅」が0.2ポイント、「ホテル」が6.6ポイント、「車中泊」が0.7ポイントそれぞれ増加した一方、「旅館」は1.2ポイント減少した。
- ・ 新幹線開業による時間短縮効果により、日帰りがやや増加し、宿泊数がやや減少したことが考えられる。
- ・ ホテルや実家等が増加したのは、コンベンションや帰省が増えた影響ではないか。
- ・ 今後は、長期宿泊する滞在型観光の推進が課題である。

## ⑥旅行したエリアと利用交通機関



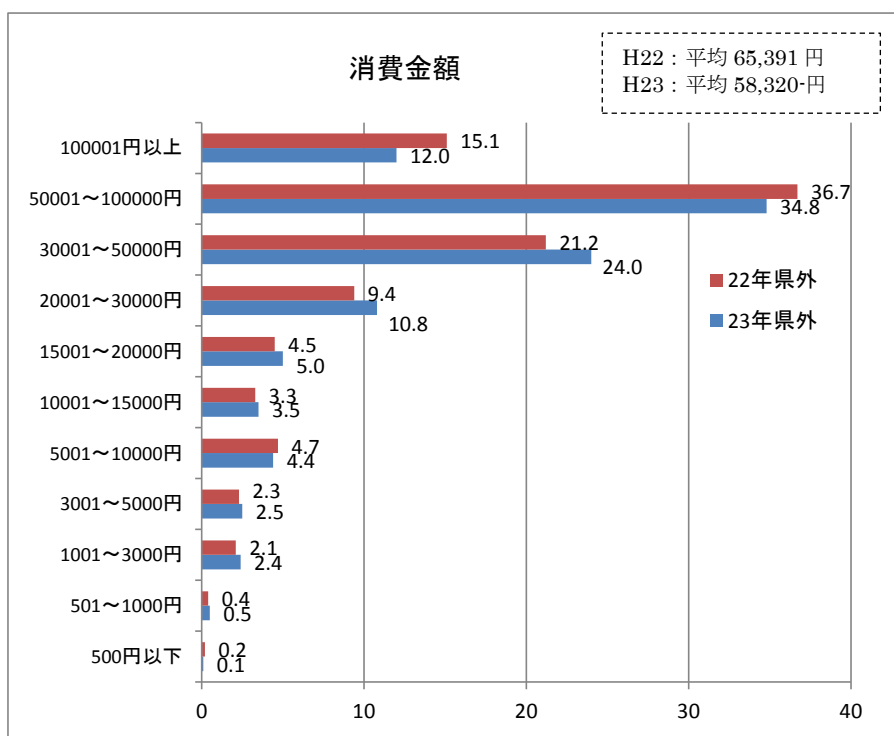
- ・ 東青エリアが1.9ポイント、中南エリア4.7ポイント、三八エリアが9.6ポイント、上北エリアが2.5ポイント増加し、西北エリアが6.3ポイント、下北エリアが4.5ポイント減少した。
- ・ 東青は新青森駅開業、中南は弘前城築城400年祭、三八は「はっち」のオープンや復興需要、上北は七戸十和田駅開業による影響か。一方、西北や下北は新幹線駅か

ら離れている地理的影響があるものと推測される。



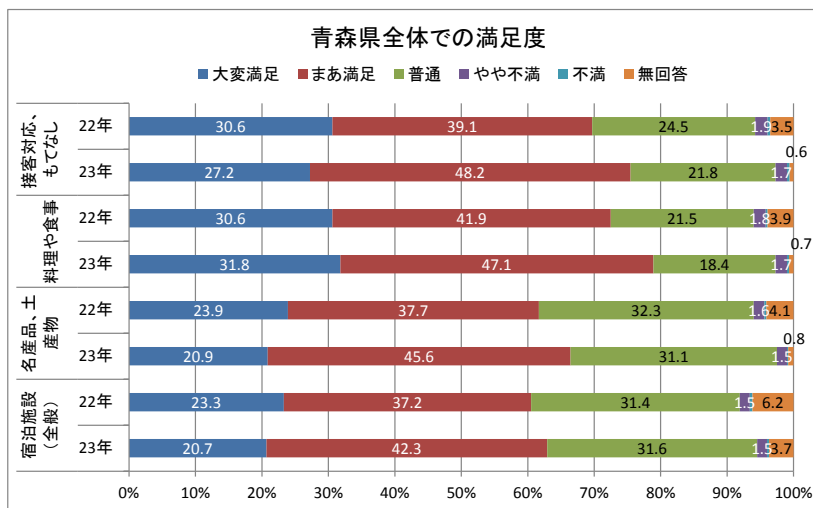
- ・ JR新幹線が12.4ポイント、JR在来線が4.6ポイント、市内バスが4.7ポイント増加した。一方、貸切バス・観光バスが4.1ポイント、飛行機が10.5ポイント減少した。
- ・ 新幹線開業による新幹線利用者の増加がみられた一方、飛行機利用者が減少し、また震災等の影響から団体ツアーが減少したことから、貸切・観光バスが減少したものと推測される。

## ⑦消費金額



- ・ 旅行消費金額では、平成23年は1人平均58,320円で前年比7,071円の減少(10.8%減)となった。5万円未満の割合が増えた一方、5万円以上の高額旅行が減少した。

## ⑧ 満足度

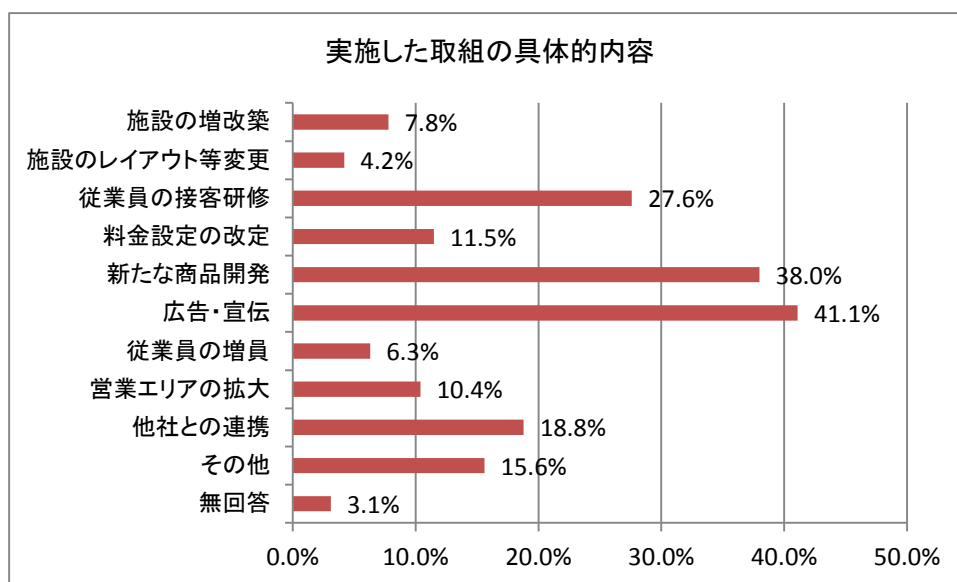
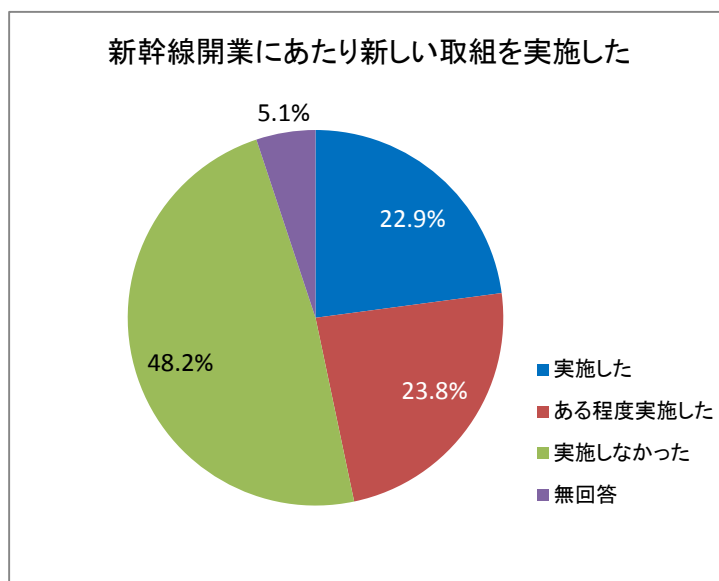


		『満足』	普通	『不満』	無回答	計
接客対応、もてなし	23年	75.4	21.8	2.1	0.6	99.9
	22年	69.7	24.5	2.3	3.5	100.0
料理や食事	23年	78.9	18.4	2.0	0.7	100.0
	22年	72.5	21.5	2.1	3.9	100.0
土産品、土産物	23年	66.5	31.1	1.7	0.8	100.1
	22年	61.6	32.3	1.9	4.1	99.9
宿泊施設(全般)	23年	63.0	31.6	1.8	3.7	100.1
	22年	60.5	31.4	1.9	6.2	100.0

- 県全体の満足度では、「大変満足」と「満足」を合わせた『満足』が、「接客対応・もてなし」が75.4%で5.7ポイント増加、「料理や食事」が78.9%で6.4ポイント増加、「土産品や土産物」が66.5%で4.9ポイント増加、「宿泊施設」が63.0%で2.5ポイント増加といずれも向上した。
- 新幹線開業に向けて、受入態勢の整備に取り組んだ成果が現れたものと考えられる。

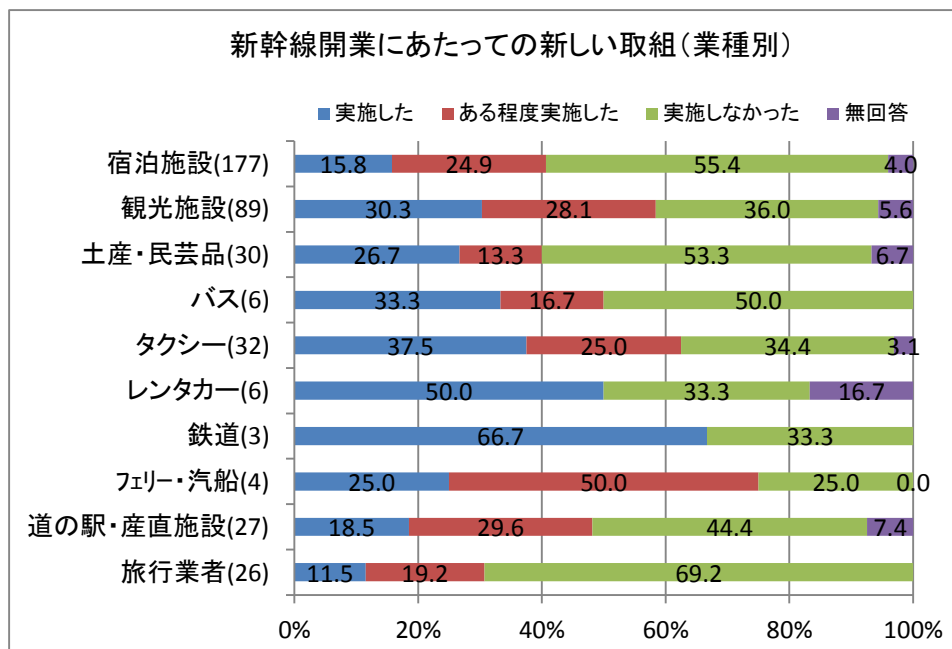
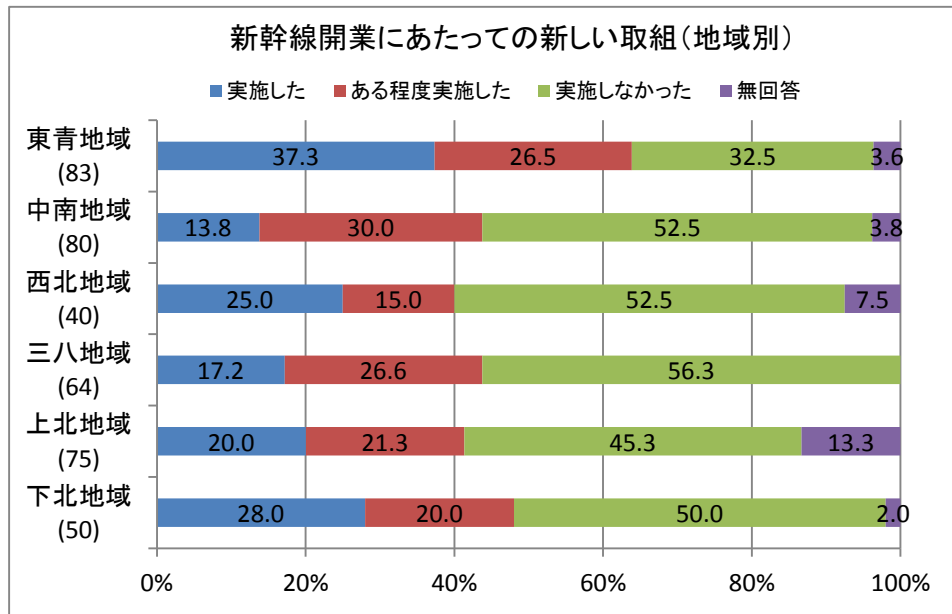
## (11) 観光関連事業者の取組状況について

### ①新幹線全線開業に際しての新たな取組とその効果

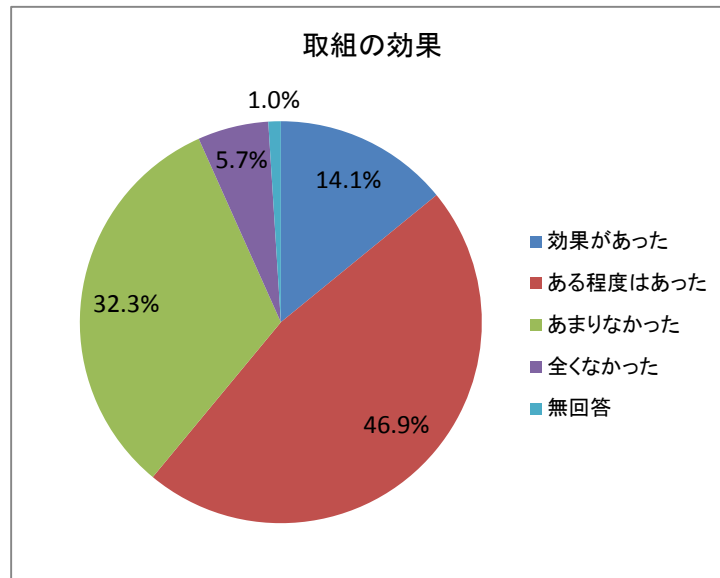


- 平成23年12月～24年2月に県（観光国際戦略局）が県内観光事業者を対象にアンケート調査を実施し、411社から回答を得た。
- その結果、東北新幹線全線開業にあたっての新しい取組は、「実施した」が22.9%、「ある程度実施した」が23.8%で、これを合算した『実施した』は46.7%であったが、一方「実施しなかった」も48.2%で、ほぼ半々であった。
- 『実施した』取組の具体的内容については、「広告・宣伝」が最も多く41.1%、次に「新たな商品開発」（38.0%）、「従業員の接客研修」（27.6%）が多かった。



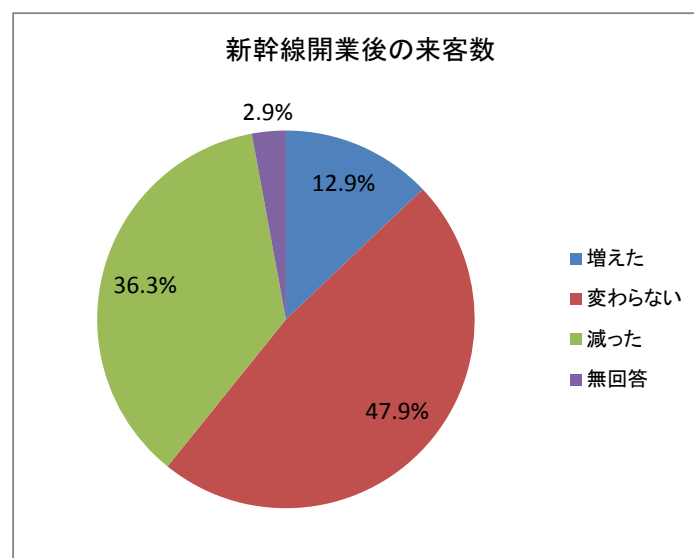


- ・ 地域別にみると、新しい取組を「実施した」と「ある程度実施した」の『実施した』が最も多かったエリアは、東青地域で、以下、下北、中南、三八、西北、上北の順になっている。
- ・ 業種別では、フェリー・汽船が最も多く、以下、鉄道、タクシー、観光施設等の順になっている。

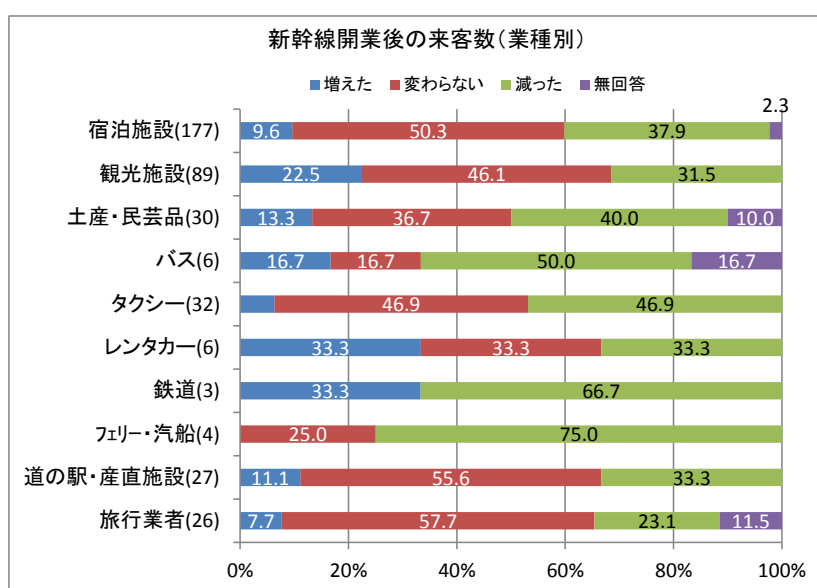
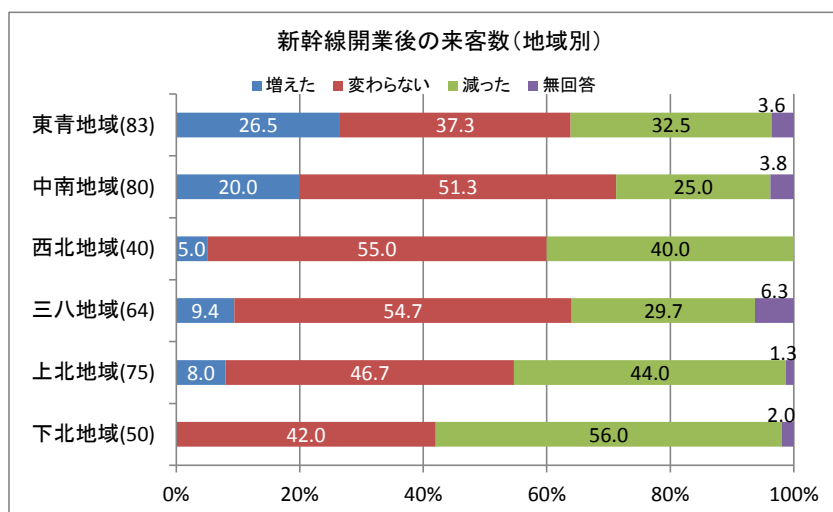


- 新たな取組を『実施した』事業者のうち、「効果があった」が14.1%、「ある程度あった」が46.9%で、合わせると約6割の61.0%が『効果があった』のに対し、「あまりなかった」が32.3%、「全くなかった」が5.7%で合わせると約4割の38.0%が『効果がなかった』としている。
- 何らかの新たな取組を実施した事業者のうち、効果があったのは約6割にとどまり、東日本大震災の影響が伺われる。

**②新幹線全線開業後の来客数**

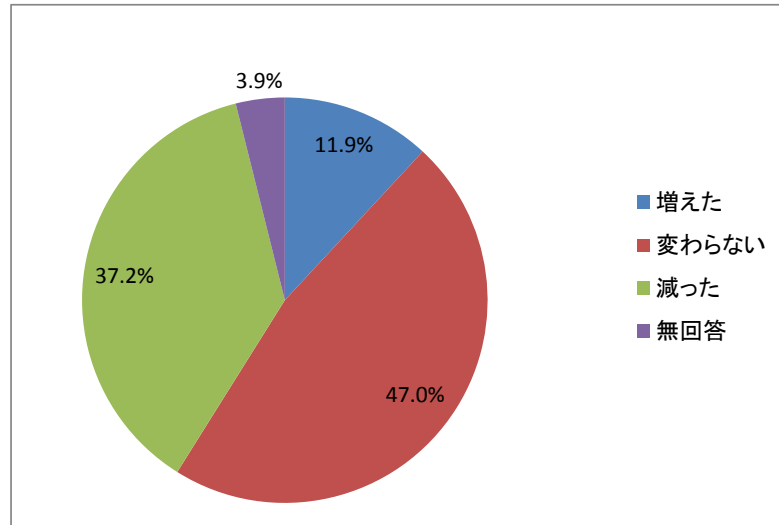


- 東北新幹線全線開業後の来客数の変化については、「変わらない」が最も多く47.9%、次が「減った」で36.3%、「増えた」は12.9%にとどまった。

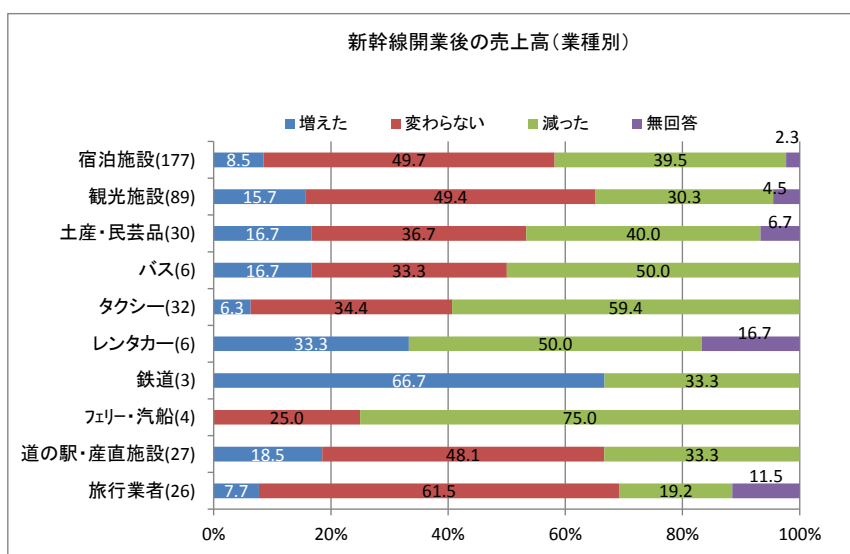
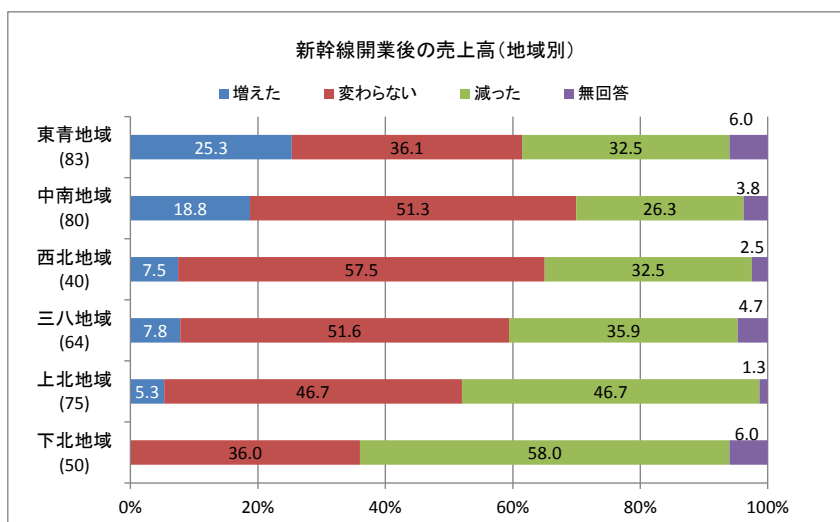


- 地域別にみると、「増えた」が最も多かったのは東青地域（26.5％）で、以下中南地域（20.0％）、三八地域（9.4％）などとなっている。一方、「減った」が最も多かったのは下北地域（56.0％）で、以下上北地域（44.0％）、西北地域（40.0％）などとなっている。
- 業種別にみると、「増えた」が最も多かったのはレンタカー（33.3％）、鉄道（33.3％）で、以下観光施設（22.5％）、バス（16.7％）などとなっている。一方、「減った」が最も多かったのはフェリー・汽船（75.0％）で、以下鉄道（66.7％）、バス（50.0％）などとなっている。

### ③新幹線開業後の売上高



- 東北新幹線全線開業後の売上高の変化については、「変わらない」が最も多く 47.0%、次が「減った」で 37.2%、「増えた」は 11.9%にとどまった。



- ・ 地域別にみると、「増えた」が最も多かったのは東青地域（25.3%）で、以下、中南地域（18.8%）、三八地域（7.8%）などとなっている。一方、「減った」が最も多かったのは下北地域（58.0%）で次いで上北地域（46.7%）となっている。
- ・ 業種別にみると、「増えた」が最も多かったのは鉄道（66.7%）で、以下レンタカー（33.3%）、道の駅・産直施設（18.5%）などとなっている。一方、「減った」が最も多かったのはフェリー・汽船（75.0%）で、以下タクシー（59.4%）、バス（50.0%）、レンタカー（50.0%）などとなっている。

### （7）地域における観光コンテンツ開発の取組状況について

平成22年12月の東北新幹線全線開業及び平成23年4月～7月の青森デスティネーションキャンペーンに向けて、県内全域で観光コンテンツの開発が行われた。

#### ＜主な取組内容＞

##### ① 青森・東津軽エリア

- ・ あおもり街てく、古川市場「のつけ井」、あおもり寿司クーポン、浅虫温泉まるごと体験クーポン（青森市）
- ・ 漁船で行GO！（平内町）

##### ② 弘前・南津軽エリア

- ・ ひろさき街歩き、津軽弁販売事業、りんご花まつり（弘前市）
- ・ お山のおもしえ学校（黒石市）

##### ③ 五所川原・奥津軽・西海岸エリア

- ・ 港町「あじがさわ」歴史散策（鯨ヶ沢町）
- ・ 五能線沿線駅でのおもてなし（深浦町）
- ・ りんごの花ウォーク（板柳町）

##### ④ 八戸・三八エリア

- ・ 震災復興特別企画八戸まちぐる「のんべえクーポン」（八戸市）
- ・ 北のフルーツパーラー（スイーツ作り体験）（南部町）
- ・ 新郷村パワースポット巡りスタンプラリー（新郷村）

##### ⑤ 十和田・三沢・上北エリア

- ・ いつでも田舎体験（かだれ！山菜収穫体験）（七戸町）
- ・ 野辺地町・古（いにしえ）の文化と歴史探訪ウォーキング（野辺地町）

##### ⑥ むつ・下北エリア

- ・ ぐるりん下北観光ルートバス（むつ市）
- ・ OEC 観光ガイド・浜のチャレンジ市（大間町）
- ・ ゆかい村でポラリス（北極星）を探せ！（風間浦村）

#### 4 まとめ

平成 22 年 12 月の東北新幹線全線開業後における本県観光の動向は、開業直後から震災前までは、本県の弱みである冬期間にもかかわらず、宿泊客、観光客とも 2 桁の大きな伸びを示し、春以降の本格的な観光シーズンに大きな期待をかけていた。

しかし、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災とそれに伴う福島第 1 原子力発電所事故の影響を受け、開業後 1 年間でみると、宿泊客数で対前年比 98.7%、観光客数で対前年比 95.6%（県のサンプル調査）にとどまった。

平成 14 年 12 月の東北新幹線八戸駅開業の時は、翌年の観光入込客数（延べ人数）が前年比 109.0%と大幅に増加したとことと比較すれば、震災がいかに大きな影響を及ぼしたかがわかる。

経済効果の観点からみても、平成 23 年の観光消費額は 139,522 百万円（暫定値）で対前年比 82.1%にとどまった。観光関連事業者へのアンケート調査でも、開業後の売上高が「増えた」のは 11.9%にとどまり、「変わらない」が 47.0%、「減った」が 37.2%だった。

地域別にみると、事業者アンケートによれば、全般的に厳しい中、青東地域と中南地域が、来客数や売上高が前年より「増えた」割合がそれぞれ約 25%、約 20%で県内では多くなっており、逆に下北地域や上北地域が厳しくなっている。

新青森駅開業により、当駅からアクセスの良い地域は一定の開業効果があったことや、コンベンションが多く開催されたことで、青東地域と中南地域が比較的良かったものと推測される。

開業後の県外観光客の変化としては、新幹線の利便性向上により、関東や東北地域からの入込の割合が増加し、旅行形態としては、家族や友人の少人数の個人旅行化が一層進展していること、時間短縮効果により、1人当たりの平均宿泊数や消費金額がやや減少したことがわかった。

また、開業のプラス効果としては、県外観光客の満足度が「接客」「料理」「土産品」「宿泊施設」全ての項目で改善していることや、県内全域で新たな観光コンテンツが開発されたことが挙げられる。

今後、震災の影響を払拭し、真の開業効果を獲得していくためには、開業後の観光客の動態を踏まえながら、個人客向けに地域や個々の施設（ホテル・旅館、観光施設、商店、飲食店、交通機関等）の魅力付けを図り、消費金額を増やしていくこと、また、リピーターを増やすため、「おもてなし」や「観光コンテンツ」の底上げにより、「満足度」を高める受入態勢の一層の強化が重要であり、県外に向けての情報発信・誘客宣伝活動とともに、引き続き、県内全域で官民あがいで取り組む必要がある。